



## コーディネーターニュース 公共イメージについて考える

第1ゾーン

ロータリー公共イメージコーディネーター補佐

### 鈴木 秀憲

(吹上RC)

ロータリーは、毎年行われるリーダー交代による継続性確保の課題を認識し、一方で変化が激しく、予測が極めて困難な環境を考慮し、長期計画を組織運営の為の具体的な計画として位置づけ、2007年6月、RI理事会が2007-10年度の国際ロータリーの長期計画を承認しました。これにはロータリーの使命、ビジョン、優先項目、目標として提案された内容が検討され、7つの優先項目とロータリーの基本的信条を表す5つの中核的価値観も含まれました。

3年後の2010年に見直しが行われ、整理され、現在と同じ3つの優先項目になりました。(2011年11月に、Strategicの日本語訳が「長期計画」から「戦略計画」になりました)

これが、更に3年後の2013年に再度見直され、引き続き「現在の内容」になっています。

その優先項目の一つ「公共イメージと認知度の向上」について考えてみましょう。

この項目について考えると、一つは「ロータリーが行っていることを世間にご理解頂く為に周知する事」。つまり「どのように世間へお伝えするのか?」という事=方法論ですが、私は「世間へお伝えすべき事項は何か?」という事つまり内容論を真っ先に考えます。

そして大切な事は「世間が必要としていることを行えば、結果として『ロータリーの公共イメージ』がアップする」と考えます。世間があまり必要としていない

事を行っても、ロータリーの公共イメージは向上しないで、「マスターベーションを行っている」と受け取られかねないと考えます。マスターベーションという表現は酷いとしても、「公共イメージの向上」には繋がらないと思います。

それとも一つ、同じ地域に複数のクラブがあり、夫々が異なる奉仕活動を行っている、世間の方からは、やはり「ロータリーって何をやっているのかよく解らない。」と思われそうです。

従って「奉仕活動をどのように行うか?」が、肝心です。つまり何が公共の為になるかです。

この事を、クラブで(場合によったら同一地域の他のクラブも含め合同で)、或は地区で議論して、公共の為(公益)の事業を試みる必要があります。

又、当初は意義があった奉仕活動でも、年月を経ると意義や意味が薄れることもあります。奉仕活動の見直し、つまり「スクラップ&ビルド」も考える必要があります。新しいジャンルの奉仕活動を行う事によって、新たな観点からの会員勧誘につなげる事も出来ます。

更に地区補助金を活用して公益事業を行い、同時にこの事を世間へ広報したら如何でしょうか? 公益性の強い奉仕事業であれば有るほど、黙っていても世間で周知され、公共イメージや認知度は向上することでしょう。